

## 【西九州大学】

平成25年度より始めた、佐賀大学との共同申請事業、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）（以下、コミュキャン佐賀という。）」は29年度で終了を迎えたが、同事業はその後継事業、文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）『さが地方創生人材育成・活用プロジェクト』」において継続され、本年度最終年度を迎えた。COC+には、地元就職率1割向上という明確な数値目標が設定されており、その方策として、佐賀県内での中長期実践型を含むインターンシップの普及・促進に取り組んでいる。具体的には、佐賀県内におけるインターンシップ実施数の拡大および質的充実を目指し、地元企業・団体等に向けたインターンシップ勉強会を佐賀市で開催した。インターンシップの現状理解や佐賀地域では馴染みの薄い実践型インターンシップについて、プログラム開発の初歩を受入側とともに勉強するもので、佐賀県内の企業・団体から参加いただいた。本会の成果としては、佐賀地元企業の魅力発信プログラムである「サガスト」、ライトファイタジーなどのイベントの企画運営に携わるプログラムなどの中長期実践型プログラムを開発し、学生が取り組んだ。今後も勉強会等を通じて県内全域に多種多様なインターンシップを普及させ、学生の積極的な参加を促し、実社会に通じる実践力と佐賀に対するシビックプライドを持った「さがの未来を創る」人材育成を進めている。

従前の取組みである「あすなろう体験Ⅰ～Ⅲ」も継続して実施している。あすなろう体験Ⅰは、1年次必修科目であり、令和元年度は全学的取組みとなって9年目を迎え、サービスマーケティングとして施設や祭りのボランティアなどの学外活動に、例年通りの参加者数（3000件以上）を実現した。あすなろう体験Ⅱにおいては、中長期実践型のインターンシップを企画し実現することができた。この事例を通して、インターンシップの高度化に取り組み、評価ルーブリックの設計も着手した。あすなろう体験Ⅲにおいては、地域イベントへの参画を始め、商品開発に取り組んでおり様々な成果を上げている。県内5つの高等教育機関および放送大学と連携している大学間連携共同教育推進事業（平成24年度G P事業）も補助期間は終了したが、継続して取組を行っている。発達障害のある子どもや、多様な課題を抱える子どもに対する支援として「大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成」に取り組んでおり、発達障害のある幼児に対する確かな支援力をもつ幼稚園教諭と保育士（＝幼保専門職業人）及び小学校教諭の養成に関し、「子ども発達支援士」輩出という成果を上げることができた。

平成23年度から継続しておこなっている震災支援活動として、佐賀県内に避難してこられた親子を対象に“ほっ”とリラックスして過ごして頂けるような場の提供を行う事業「ほっとひろば西九大」は継続的に行ってきたが、その役目は終えたものとして今年度で終了することとした。

子ども学部では、短期大学部幼児保育学科と共に佐賀県における子育て環境の向上を目的に「子ども研究ネットワーク」を組織し、「親子いきいき広場（短期大学部幼児保育学科）」、「子どもミュージアム」、「子どもフェスタ」などのイベント開催を通し、多くの子ども及びその保護者たちに参加いただいている。また、臨床心理相談室事業では、不登校や発達障害児への心理相談に加え、地域性を生かした子育て支援など臨床心理に関する社会ニーズに応え、相談事業を行っている。さらに、小城市内の8つの小学校へ子ども支援ボランティアとして週に3時間ほど活動を行っている。

食育による地域連携では、学内の「食育サポートセンター」を拠点とし、学生食育ボランティア「あすなろ隊」の派遣や食育推進リーダーの養成、食育推進プログラムの開発などをおこなっている。令和元年度も年間を通して、食育講話や食育支援活動を展開し、地域への食育推進に貢献した（詳細は食育サポートセンターHPにて）。

その他、地域への大学開放の取組みとして、「チャレンジ幸齢セミナー」「にこにこふれ愛デイ」を開催している。チャレンジ幸齢セミナーでは、地域の高齢者を対象に、大学版のデイサービスとして、本学の教員

及び学生が創意工夫のもと、レクリエーションなどの活動などの活動を行った。

リカレント教育・研究推進本部に所属する各センターでは、以下の取り組みを行った。健康福祉・生涯学習センターでは、地域に開かれた学校をめざし、「公開講座」や「生きがいつくり教室」を開講している。公開講座は、西九州大学グループが保持するさまざまな教育・研究資源を活用し、多くの方々にご参加いただいた。また、生きがいつくり教室では、仲間と学生とのふれあいの場となる「生きがいつくり教室」も開講し、多くの方にご参加いただいた。

健康支援センターでは、多目的室およびすこやかキッチンスタジオを活用した公開講座を実施できた。同センターでの講座は、健康増進、疾病予防に着目したものが多く、地域住民の健康増進に寄与する新たな展開が期待される。同施設は広く一般にも貸し出されており、各種団体等の利活用も徐々に増えてきている。産学官連携推進室では、大学の知財を活用した商品開発など、産業界との教育・研究に関する連携事業を計画・推進するための準備として、産学官連携ポリシーのもと、共同研究・受託研究を拡大するための申し込み様式をウェブに公開した。産学官連携事例、研究支援可能領域等も公開することができた。

また、本学は、「佐賀西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム（略称QSP）」で、QSP健康医療福祉専門委員会の幹事校も務めている。令和元年度は同委員会におけるプロジェクト「ウォーキングで健康イノベーション」を企画した。同企画には佐賀・長崎県民に対する「生活習慣病予防、認知症予防、健康増進、福祉ニーズの発掘」など多様なコンテンツを含んでいる。令和元年度は28件の企画を実現できた。中でも佐賀県庁、産業界との協働で行った、健康寿命延伸のための教室やウォーキングイベントの開催は産学官連携の名を実現する取組となった。

## 【西九州大学短期大学部】

本学の地域連携並びに地域貢献活動においては、次のとおり継続的な活動を展開している。

### (1) 健康福祉・生涯学習センターでの生涯学習活動

西九州大学グループリカレント教育・研究推進本部に属する健康福祉・生涯学習センターは、年齢を問わず地域の方々に、生涯学習の場を提供している。当該センターでは、「エルダーカレッジ」「生きがいつくり教室」「公開講座」を開設し、年間を通して展開している。エルダーカレッジでは、「学び」と「出会い」をコンセプトに、学びのニーズに応じて本科（2年間）と大学院（本科卒業後更に1年間）を開設し、多彩なジャンルの講座を開講している。「生きがいつくり教室」では、「ふれあい」と「生きがいつくり」をコンセプトに、地域の方々に教員による講座や学生とのレクリエーションや体操などの体験活動を中心とする生きがいつくりのための講座を開講している。「公開講座」では、年間を通して教員の専門を生かした比較的専門的な内容やトピックについて分かりやすく説明する講座を広く公開している。

### (2) 高大連携活動

現在、本学は県内私立高校2校との高大連携の協定を締結している。毎年高大連携に係る協議会を開催し、校長を含む高校教諭から本学教育への意見を聴取する場を設けたり、「ポルタ」という高校生対象の参加型の模擬授業（体験型）を開催したりしている。「ポルタ」においては出身高校の在学生と高校生による座談会も設け、双方向型の学びの場になるように工夫している。また、協定を締結していない高校に対しても、各学校からの要望に応えるべく職業理解をはじめとする「出前講座」を展開している。全ての高校を対象に平成26年度から行ってきた「キャンパスプレビュー（参加型授業参観）」については、平成30年度から「キャリアサポート・プログラム」と名称を変更し、各種現場で活躍している卒業生からの職業理解に関する講話を取り入れるなど、キャリア教育に関しても高大連携の深化を図っている。

### (3) 地域生活支援学科及び幼児保育学科による地域との交流を含めた学修活動

各学科における地域貢献としては、各学科カリキュラムの学修活動の中でそれぞれ地域交流イベント等を開催している。地域生活支援学科では、学科内3コースの全学生と全教員が協働し、地方自治体（佐賀県みやき町持丸地区）が保有する改装古民家の活用や地産地消をテーマとした学生による自主運営レストランの開店、当該地産食材を用いた新食品の開発と販売、高齢者サロンの実施、町興し観光ガイドの制作活動などを通して、地域との連携教育プログラム（正規授業）により同地域の振興を目標とする課題発見と解決のためのPBL型アクティブラーニング活動を開始している。また、包括連携協定を締結している行政との連携活動にも全学を挙げて取り組んでいる。幼児保育学科では「親子いきいき広場」「表現フェスタ」、学園祭等を通し地域の親子参加交流イベントや表現の学修成果を公開している。大学コンソーシアム佐賀では、在学生並びに現職者を対象とした認定資格「発達支援士」の連携教育プログラムを展開し、地域をフィールドとする学修活動を実施している。また、西九州大学子ども研究ネットワークでも、子どもに関わる様々なジャンルに対して情報共有の場を設けている。子どもへの関わりや環境について毎年テーマを設け研修会を実施し、学内教員はもとより地域の幼稚園・保育園従事者及び保護者が広く参加している。

### (4) 西九州大学・西九州大学短期大学部「出張講義」の開講

教育の人的資源の解放・地域貢献を目的に、各教員の専門分野に関わる講義を無料出張で提供している。令和元年度は全101講義、内13講義を短期大学部教員が開講し、公的機関や校教育研修会等からの依頼に対応している。

#### (5) 施設・設備等について

本学施設・設備等を広く開放しており、令和元年度は34の団体・事業所に研修等で、講義室や実習室、器具等の貸出しを行っている。この他、定期的に本学所在地周辺での学生・教職員による清掃活動を全学で取り組んでいる。これらの活動は、随時ホームページに掲載するほか、当該部署にて報告書にてまとめている。

#### (6) 大学間連携

大学コンソーシアム佐賀においては、共通科目の提供のほか、連携校と協力し年間を通して発達支援プログラム（コンソーシアム認定の発達支援資格）と卒後講座を開講している。短期大学コンソーシアム九州においては、連携校と協力し、共同教学IR事業の展開、在学生の母校訪問活動、学修成果の公開発表、教育研究集会等を定期的実施している。さらに、九州西部地域大学短期大学連合産学官連携プラットフォームの活動においては、上述のコンソーシアム活動の統合化が図られ、広域での展開・拡充を進めている。いずれのコンソーシアム活動においても共同FD/SD活動を実施している。

#### (7) 産学官連携

本学の必修科目（共通科目）である「共に学ぶあすなろう（キャリア）Ⅰ・Ⅱ」及び「卒業研究」等の各学科目のなかで、企業や地域行政との産学官連携活動を各学科・グループ単位で計画し、体験活動を取り入れた実践的教育活動を継続して実施している。「あすなろう体験」では、当該企業と連携を図り、短期インターンシップを実施している。その他の科目においては、産官から実務家の非常勤講師を置くなどして連携した学修活動を実施している。これまでに、佐賀県三養基郡みやき町と企業との菓子開発、本学学生によるみやき町公園マップの作成、佐賀県西松浦郡有田町有田焼陶器会社とのレシピ開発、佐賀県杵島郡江北町との町おこし活動（高齢者福祉活動、旬彩カフェ[ノンブリル]開店による空店舗の活用）、佐賀県小城市（中学校）との介護体験講座、ほか介護福祉士向けの卒後講座、IT企業と共同開発した評価支援システムの特許共同出願など、全学的な取り組みを行っている。また、佐賀県立産業技術学院の委託訓練生の受け入れを行い社会人の受け入れを行っている。将来、学生の主な就職先となる実習施設からは、意見を聴取する機会を設けるなどして学習成果の獲得改善に当たっている。